

愛媛大学教育学部附属特別支援学校
いじめ防止基本方針

学校いじめ防止基本方針

愛媛大学教育学部附属特別支援学校

1 学校いじめ防止基本方針

いじめは、冷やかしやからかいなどのほか、情報機器を介したいじめ、暴力行為に及ぶいじめなど、学校だけでは対応が困難な事案も増加している。また、いじめがきっかけになって、不登校になってしまったり、自らの命を絶とうとしてしまったりするなど、深く傷つき、悩んでいる児童生徒もいる。いじめの問題への対応は学校として大きな課題である。

そこで、児童生徒達が意欲を持って充実した学校生活を送れるよう、いじめ防止に向けて日常の指導体制を定め、いじめを認知した場合は、適切に且つ速やかに解決するための「学校いじめ防止基本方針」（いじめ防止全体計画）を定める。

2 いじめとは

(1) いじめの定義

「いじめ」とは、児童生徒に対して、該当児童生徒等と一定の人的関係にある他の児童生徒等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、該当行為の対象となった児童生徒等が心身の苦痛を感じているものをいう。

(2) いじめに対する基本的な考え方

- ・「いじめは絶対に許されない」、「いじめはいじめる側が悪い」との認識
- ・「いじめは、どの児童生徒にも、どの学校においても起こり得る」との認識
- ・「いじめの未然防止は、学校・教職員の重要課題」との認識

(3) いじめの構造と動機

①いじめの構造

いじめは、「いじめられる児童生徒」、「いじめる児童生徒」だけでなく、「観衆」・「傍観者」などの周囲の児童生徒がいる場合が多い。周囲の児童生徒の捉え方によっても左右される場合がある。また、教職員の言動による捉え方によっても大きく影響される場合がある。

②いじめの動機

いじめの動機には、以下のものなどが考えられる。（東京都立研究所の要約引用）

- ・嫉妬心（相手をねたみ、引きずり下ろそうとする）
- ・支配欲（相手を思いどおりに支配しようとする）
- ・愉快犯（遊び感覚で愉快的な気持ちを味わおうとする）
- ・同調性（強いものに追従する、数の多い側に入りたい）
- ・嫌悪感（感覚的に相手を遠ざけたい）
- ・反発・報復（相手の言動に対して反発・報復したい）
- ・欲求不満（いらいらを晴らしたい）

(4) いじめの態様

いじめの態様には、以下のものなどが考えられる。

悪口を言う・あざける、落書き・物壊し、集団での無視、陰口、避ける、ぶつかる・小突く、命令・脅し、性的辱め、課外活動中のいじめ、メール等による誹謗中傷、噂流し、授業中のからかい、仲間はずれ、嫌がらせ、暴力、たかり、使い走り

3 いじめ防止の指導体制・組織的対応

(1) 日常の指導体制

いじめを未然に防止し、早期に発見するための日常の指導体制を以下の通りとする。

別紙1 ※いじめ防止委員会の設置

(2) 緊急時の組織的対応

いじめを認識した場合のいじめの解決に向けた組織的な取組を以下の通りとする。

別紙2 ※いじめ対策委員会の設置

4 いじめの予防

いじめの問題への対応は、いじめを起こさないための予防的取組が求められる。

学校においては教育活動全体を通して、自己有用感や規範意識を高め、豊かな人間性や社会性を育てることが重要である。

(1) 日常の教育活動の充実

- ・規範意識、帰属意識を互いに高める集団づくり
- ・コミュニケーション能力を育み、自信を持たせる、一人一人に配慮した授業づくり
- ・教育活動全般における望ましい人間関係づくりの活動
- ・日常生活の指導及びホームルーム活動の充実
- ・ボランティア活動の充実

(2) 教育相談の充実

- ・面談の実施

(3) 人権教育の充実

- ・人権意識の高揚

(4) 情報モラル教育の充実

(5) 保護者・地域との連携

- ・いじめ防止対策推進法、学校いじめ防止基本方針の周知
- ・学校公開の実施

5 いじめの早期発見

いじめ問題を解決するために最も重要なポイントは、早期発見・早期対応である。

児童生徒の言動に留意するとともに、何らかのいじめのサインを見逃すことなく発見し、早期に対応することが重要である。

(1) いじめの発見

いじめ行為を直接発見した場合は、その行為をすぐに止めさせるとともに、いじめられている児童生徒や通報した児童生徒の安全を確保する。「緊急時の組織的対応」により、速やかに報告し、事実確認をする。

- (2) いじめられている児童生徒・いじめている児童生徒のサイン
別紙3
- (3) 教室・家庭でのサイン
別紙4
- (4) 相談体制の整備
 - ・相談窓口の設置・周知
 - ・面談の実施
- (5) 定期的調査の実施
 - ・アンケートの実施
- (6) 情報の共有
 - ・報告経路の明示・報告の徹底
 - ・職員会議等での情報共有
 - ・要配慮児童生徒の実態把握
 - ・進級時の引継ぎ

6 いじめへの対応

(1) 児童生徒への対応

① いじめられている児童生徒への対応

いじめられている児童生徒の苦痛を共感的に理解し、心配や不安を取り除くとともに、全力で守り抜くという「いじめられている児童生徒の立場」で、継続的に支援することが重要である。

- ・安全・安心を確保する。
- ・心のケアを図る。
- ・今後の対策について、共に考える。
- ・活動の場等を設定し、認め、励ます。
- ・温かい人間関係をつくる。

② いじめている児童生徒への対応

いじめは決して許されないという毅然とした態度で、いじめている児童生徒の内面を理解し、他人の痛みを知ることができるようにする指導を根気強く行う。

- ・いじめの事実を確認する。
- ・児童生徒の特性及びいじめの背景や要因の理解に努める。
- ・いじめられている児童生徒の苦痛に気付かせる。
- ・今後の生き方を考えさせる。
- ・必要がある場合は懲戒を加える。

(2) 関係集団への対応

被害・加害児童生徒だけでなく、おもしろがって見ていたり、見て見ぬふりをしたり、止めようとしなかったりする集団に対しても、自分たちでいじめ問題を解決する力を育成することが大切である。

- ・自分の問題として捉えている。

- ・望ましい人間関係づくりに努める。
- ・自己有用感が味わえる集団づくりに努める。

(3) 保護者への対応

①いじめられている児童生徒の保護者に対して

相談されたケースでは、複数の教職員で対応し学校は全力を尽くすという決意を伝えて少しでも安心感を与えられるようにする。

- ・じっくりと話を聞く。
- ・苦痛に対して本気になって精一杯の理解を示す。
- ・親子のコミュニケーションを大切にするなどの協力を求める。

②いじている児童生徒の保護者に対して

事実を把握したら速やかに面談し、丁寧に説明する。

- ・いじめは誰にでも起こる可能性がある。
- ・児童生徒や保護者の心情に配慮する。
- ・行動が変わるよう教職員として努力していくこと、そのためには保護者の協力が必要であることを伝える。
- ・何か気付いたことがあれば報告してもらう。

③保護者同士が対立する場合など

教職員が間に入って関係調整が必要となる場合がある。

- ・双方の和解を急がず、相手や学校に対する不信感の思いを丁寧に聞き、寄り添う態度を臨む。
- ・管理職が率先して対応することが有効な手段となることもある。
- ・大学や関係機関と連携し解決を目指す。

(4) 関係機関との連携

いじめは学校だけでの解決が困難な場合もある。情報の交換だけでなく、一体的な対応をすることが重要である。

①愛媛大学との連携

- ・関係児童生徒への支援・指導、保護者への対応方法について、大学の専門家と連携する。(大学の臨床心理士や教育実践総合センターの先生方に依頼する)

②警察との連携

- ・心身や財産に重大な被害が疑われる場合
- ・犯罪等の違法行為がある場合

③児童相談所との連携

- ・事実関係を踏まえた育成相談・非行相談
- ・家庭の抱える困難さへの対応

④福祉関係との連携

- ・家庭の養育に関する指導・助言
- ・家庭での児童生徒の生活、環境の状況把握

⑤地域の学校との連携

- ・関係する小・中学校及び高等学校の生徒指導主事等との連携

⑥医療関係との連携

- ・精神保健に関する相談
- ・精神症状についての治療、指導・助言

7 ネットいじめへの対応

(1) ネットいじめとは

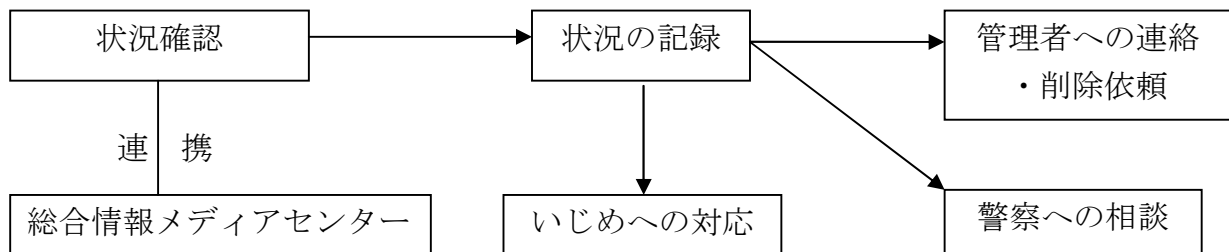
文字や画像を使い、特定の児童生徒の誹謗中傷を不特定多数の者や掲示板に送信する、特定の児童生徒になりすまし社会的信用を貶める行為をする。掲示板等特定の児童生徒の個人情報を掲載するなどがネットいじめであり、犯罪行為である。

(2) ネットいじめの予防

- ①保護者への啓発
 - ・フィルタリング
 - ・保護者の見守り
- ②情報モラル教育の充実
- ③ネット社会についての講話（防犯）の実施

(3) ネットいじめへの対処

- ①ネットいじめの把握
 - ・被害者からの訴え
 - ・閲覧者からの情報
 - ・ネットパトロール
- ②不当な書き込みへの対処



8 重大事態への対応

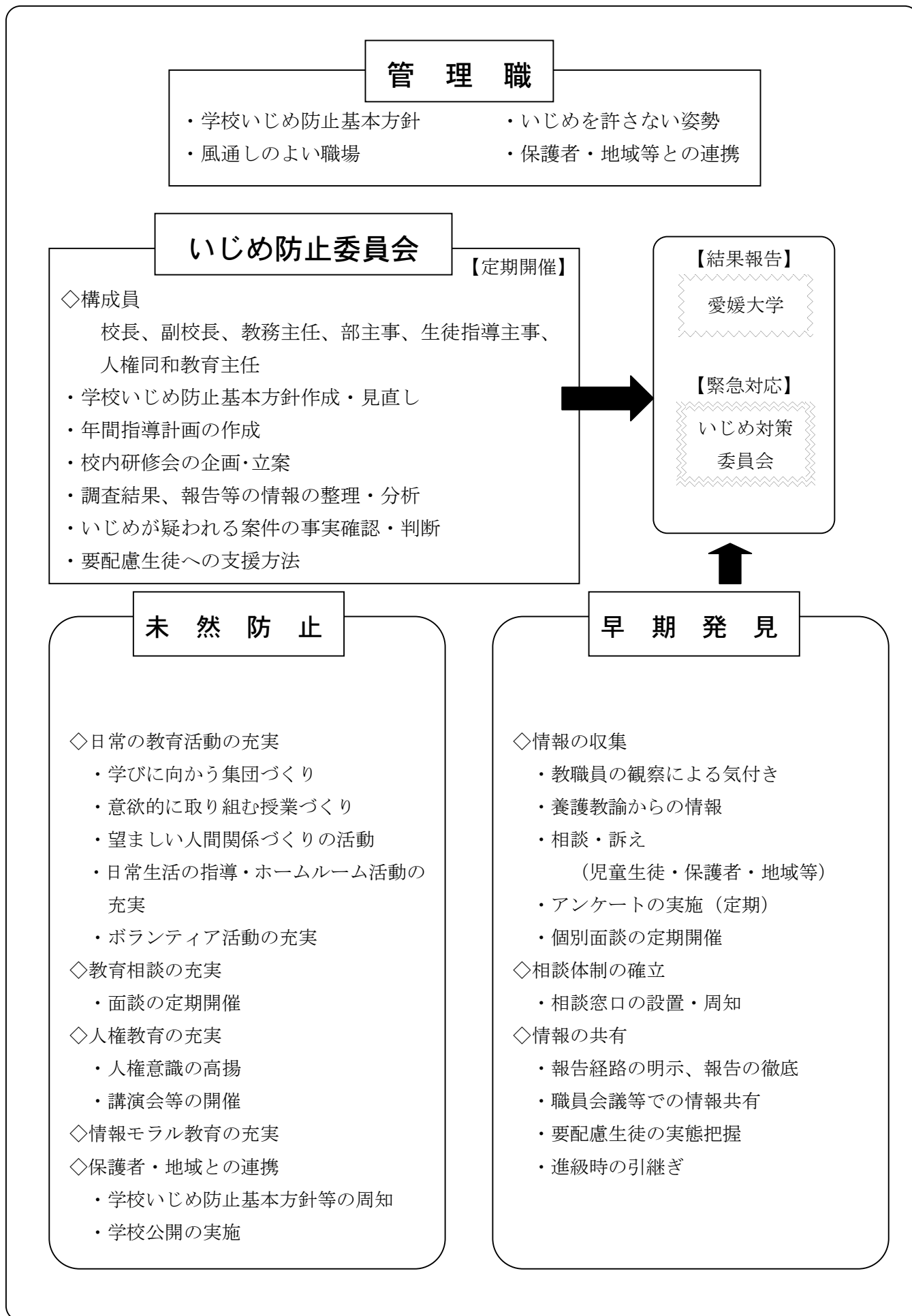
(1) 重大事態とは

- ①児童生徒の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがある。
 - ・児童生徒が自殺を企図した場合
 - ・精神性の疾患を発症した場合
 - ・身体に重大な障害を負った場合
 - ・高額な金品を奪い取られた場合
- ②児童生徒が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている。
 - ・年間の欠席が30日程度以上の場合
 - ・連続した欠席の場合は、状況により判断する。

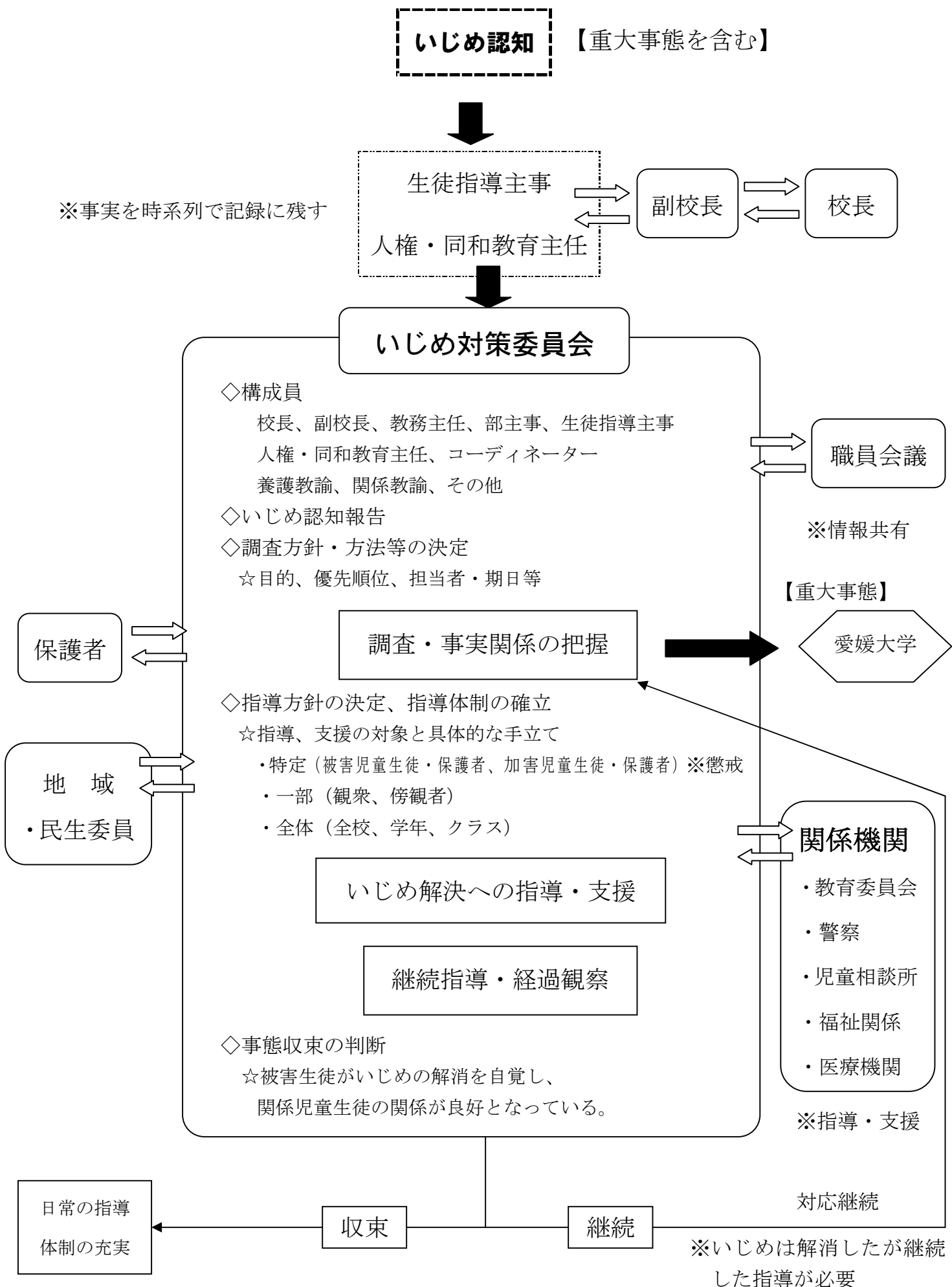
(2) 重大事態時の報告・調査協力

学校が重大事態と判断した場合、愛媛大学（附属学校園事務課）に報告するとともに、愛媛大学が設置する重大事態調査のための組織に協力する。

日常の指導体制（未然防止・早期発見）



緊急時の組織的対応 (いじめへの対応)



1 いじめられている児童生徒のサイン

いじめられている児童生徒は自分から言い出せないことが多い。多くの教職員の目で多くの場面で児童生徒を観察し、小さなサインを見逃さないことが大切である。

場 面	サ イ ン
登校時 朝の会 SHR	遅刻・欠席が増える。その理由を明確に言わない。
	教職員と視線が合わず、うつむいている。
	体調不良を訴える。
	表情が暗い。
	提出物を忘れてたり、期限に遅れたりする。
	担任が教室に入室後、遅れて入室してくる。
	ロッカーから物がなくなる。
授業中	保健室・トイレに行くようになる。
	教材等の忘れ物が目立つ。
	机周りが散乱している。
	授業に集中していない。
	ノートやプリントに汚れがある。
	突然個人名やあだ名が出される。
休み時間等	弁当にいたずらをされる。
	昼食を教室の自分の席で食べない。
	用のない場所にいることが多い。
	ふざけあっているが表情がさえない。
	衣服が汚れている。
放課後等	慌てて下校する。または、用もないのに学校やバス停等に残っている。
	持ち物がなくなったり、持ち物にいたずらされたりする。

2 いじめている児童生徒のサイン

いじめている児童生徒がいることに気が付いたら、積極的に児童生徒の中に入り、コミュニケーションを増やし、状況を把握する。

	サ イ ン
	言動が悪くなり、どことなくいつもイライラしている。
	教室等で仲間同士で集まり、ひそひそ話をしている。
	ある児童生徒にだけ、周囲が異常に気を遣っている。
	教職員が近づくと、不自然に分散したり会話をやめたりする。
	自己中心的な行動が目立ち、ボスの存在の児童生徒がいる。
	多くのストレスを抱えている。
	すぐに特定の児童生徒の名前を出す。または極端に避ける。

1 教室でのサイン

教室内がはじめの場所となることが多い。教職員が教室にいる時間を増やしたり、休み時間に廊下を通る際に注意を払ったりするなど、サインを見逃さないようにする。

	サイン
	嫌なあだ名がよく聞こえる。
	席替えで近くの席になることを嫌がる。
	グループ分けでは、特定の友達のみで集まり、いつも同じ児童生徒だけが残る。
	何かが起こったとき、特定の児童生徒の名前を挙げる。
	壁等にいたずら、落書きがあつたり、掲示物が破れていたりする。
	机や椅子、教材等が乱雑になっている。

2 家庭でのサイン

家庭でも多くのサインを出している。児童生徒の行動や様子を振り返り、確認することでサインを発見しやすい。以下のサインが見られたら、学校との連携が図れるよう保護者に伝えておくことが大切である。

	サイン
	いつもより表情が暗く、笑顔がない。
	学校やクラスのことを質問されると無口になったりイライラしたりしている。
	友人やクラスの不平・不満を口にすることが多くなる。
	朝、起きてこなかったり、学校に行きたくないと言ったりする。
	電話に出たがらなかったり、友人からの誘いを断ったりする。
	受診したメールをこそこそ見たり、携帯電話やネット（SNS等）におびえたりする。
	不審な電話やメールがあつたりする。
	遊ぶ友達が急に変わる。
	部屋に閉じこもったり、家から出なかったりする。
	理由のはっきりしない衣服の汚れがある。
	理由のはっきりしない打撲や擦り傷がある。
	登校時刻になると体調不良を訴える。
	食欲不振・不眠を訴える。
	学習時間や家事労働の時間が減る。
	夜あまり眠れていない。
	持ち物がなくなったり、壊されたり、落書きされたりする。
	自転車がよくパンクする。
	家庭の品物、金銭がなくなる。
	大きな額の金銭を欲しがる。